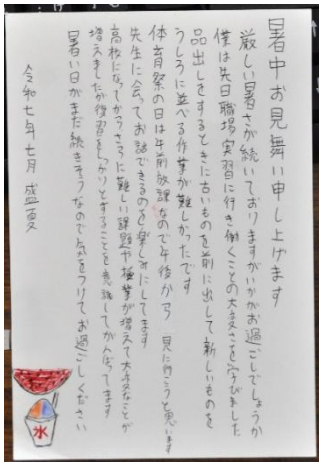
暑中お見舞い申し上げます

校　長　　武井　正明


暑中お見舞い申し上げます
厳しい暑さが続いておりますがいかがお過ごしでしょうか
僕は先日職場実習に行き働くことの大変さを学びました
品出しをするときに古いものを前に出して新しいものを
うしろに並べる作業が難しかったです
体育祭の日は半前放課なので午後から見に行こうと思います
先生に会えてお話できるのを楽しみにしています
高校になってからさらに難しい課題や極度が増えて大変なことが
増えましたが復習をしっかりとすることを意識してがんばります
暑い日がまだ続きそうなので体をフリてお過ごしください
令和七年七月　成夏

暑い日が続く。陽射しが痛い。これだけ雨が降らないと、お米も心配だ。稲も泣いている。雨が欲しい…。

そんな折、卒業生の彼から、暑中見舞いの葉書が送られてきた。この歳になると、モノよりも手紙やはがき、メッセージが嬉しい。言葉ってすごい。読むだけで元気が湧いてくる。

だから、懐かしい彼の文字を見ながら何度も読み返している。文字から彼の笑顔が浮かんでくる。丁寧に、色付きで描いてくれたスイカとかき氷のイラストも、気持ちが伝わってくる。やはりメールにはない直筆の良さ、彼が葉書を書いている時間が、贈られてきた。

今年のアルビは不振を極めている。アルビフリークの彼も、きっとやきもきしているに違いない。進学先でも、様々なハードルに苦労しながらも、元気に頑張っているようだ。だいじょうぶ。君ならやれるよ。お葉書本当にありがとう。体育祭での再会を、楽しみにしています。

小学校２年生の国語教材に「お手紙」という作品があります。

登場するのは、いつも悲観的な「がまくん」と、彼を心配する「かえるくん」です。

今までに一度もお手紙を貰ったことがない、がまくんは、どうせ自分には手紙は来ないと諦めています。その来るはずのない手紙を待つ時間は悲しい時間だと、がまくんは言います。そこでかえるくんが、がまくんに内緒で手紙を書くのです。その配達を「かたつむりくん」に頼みます。かたつむりくんは「まかせてくれよ」「すぐ やるぜ」と引き受けます。が、一向に手紙は来ません。とうとうかえるくんは、がまくんに手紙を出したことや、その中身も話してしまいます。

内容は『親愛なる がまがえるくん　ぼくは、きみがぼくの親友であることをうれしく思っています　きみの親友、かえる』

がまくんは「とてもいいお手紙だ」と言って、ふたりでしあわせな気持ちで手紙が届くのを待つ、という話です。（かたつむりくんが手紙を届けたのは４日後でした）

彼からの暑中見舞いの葉書を見ながら、ふとこの作品を思い出しました。

好きだなあ、この作品…。

「とてもいいお葉書だ」私は とても しあわせな気持ちになりました。

（『ふたりは ともだち』アーノルド・ローベル作　三木卓訳）